

未来に向けて

合併当時の伊藤泰吉市長は、市政だより合併特集号の中で、「和なきところ、何ことも成就するものではありません。大らかな気持ちを以て市民互いに手をたずさえ、郷土をよりよくするための努力を切望してやみません」と述べています。

合併から五十年、市民の皆さんの協力により川越市は発展を遂げてきました。今回話を伺った自治会の皆さんからは、よりよい川越市にするためにこれからも協力していくという声が聞かれました。

現在、市では第三次川越市総合計画

の策定を進めています。この総合計画は、第二次川越市総合計画を継承し、来年度から十年間のまちづくりの指針となるものです。市民と行政の協働、安全・安心な暮らし、歴史・文化、人と環境への配慮、まちの活力・魅力などを基本的な考え方として、まちづくりを進めていきます。

五十年前、合併したときには想像もできなかったほど大きく発展をした川越。五十年後の川越市の姿は、今の私たちにはまだ想像することができません。市では五十年後も、市民の皆さんが笑顔で住み続けてもらえるまちを目指していきます。今後とも、ご協力を願います。

合併五十周年に際して

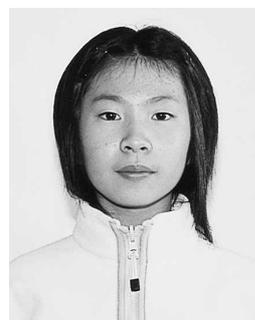
川越市長・舟橋功一



現在、川越市ではまちづくりを進めるうえでの基本的な指針となる「第三次川越市総合計画」を策定しております。

多くの皆さんのご協力をいただいておりますが、今後も市民の皆さんと協働という考えの基に、夢のある川越の実現を目指してまいりたいと考えております。

そして、この50周年を契機に、市民の皆さんとともに川越市の新たな飛躍を目指して「住んでよかった川越」から1歩進め「住むことに誇りの持てる川越」づくりへ全力を注いでまいります。今後とも、なおいっそうのお力添えをお願いいたします。



「小学生が描く

ぼくのまち・わたしのまち」

川越市自治会連合会会長賞

牛子小学校六年

野田麻奈美さん

この絵画展は、自治会連合会結成五十周年事業として行われました。同賞を受賞した野田さんに、受賞作や将来の川越市について伺いました。

蔵造りの絵を選んだのは、川越らしいと思ったからです。私は瓦の表情が好きなので、それを表現できたと思います。

未来の川越市は、みんなが楽しく暮らしていて、蔵造りの町並みがつつと残っていればいいなと思います。



受賞作「くらづくりの町なみ」

合併50周年関連のイベント

小江戸川越ふるさと再発見！
かわごえに伝わる民話と文化をたずねて
11月26日、やまぶき会館



絵を描きながら話をする池原さん

川越 おもしろ伝説の旅」、市内の郷土芸能として老袋の万作・石原のささら獅子舞・南大塚の餅つき踊りが行われました。

川越市自治会連合会結成50周年記念式典
11月21日、市民会館

功労者・協賛団体の表彰、記念事業「小学生が描くぼくのまち・わたしのまち」受賞者の表彰が行われました。

また、結成50周年を記念し、川越地区消防局に消防活動二輪車（赤バイ）が寄贈されました。



消防局へ赤バイの鍵が手渡されました



下広谷北自治会
すずき たかまさ
鈴木孝政会長
 (65歳)

坂戸市と鶴ヶ島市に隣接して、現在340世帯あります。市街地から直線距離で8kmほど離れていることもあり、坂戸市や鶴ヶ島市とのつながりが多いと思います。地域内に大堀山館跡などの遺構もあります。

合併後は鶴ヶ島駅に近い所から人口が増え始めました。当時のこの付近は湿地帯で田園が広がっていましたが、ゆるやかに人口は増えています。それでも、まだ緑豊かな地域です。

現在、圏央道の工事が進み、開通後は周辺の交通量の増加が予想されますので、交通事故防止に気を付けていきたいと思っています。



北端近くにある大堀山館跡



かいぬま
萱沼自治会
すが わらとある
菅原達会長
 (66歳/右)
かんとうえいし
神藤栄治副会長
 (67歳/左)

ここはほかの地域に比べ、発展の速度がゆっくりでした。以前は稲作中心の農家が多かったのですが、新しく移ってきた人たちが増えて現在121世帯が加入しています。住宅が増えたとはいえ、この周辺の風景は昔と変わらないと思います。富士山もよく見え、のどかで環境がよい所です。

昨年萱沼びん沼公園が開園し、ゲートボールやグラウンドゴルフができるように整備されました。いずれはゲートボールやグラウンドゴルフのメッカとして、萱沼をアピールしたいと考えています。



東端側から見た萱沼びん沼公園

川越の東西南北から

現在は、面積109.16km²の川越市、東西は16.27km・南北は13.81kmあります。合併前の面積17.58km²から大きくなり、当然東西南北の幅も広がりました。ここでは、市の東西南北を訪ね、各自治会の皆さんにそれぞれの地域を紹介していただきました。



西部自治会
ながおかしお
長岡利雄会長
かさ はた
 (66歳・笠幡)

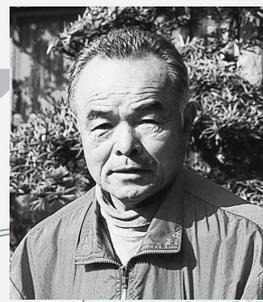
この地域はほとんどが農家です。今は米を中心に野菜なども作っています。以前は養蚕が盛んで、私の家でも蚕を飼っていました。

昭和50年代に周辺の人口が増えたため、川越西高校や霞ヶ関西小学校が開校し、道路も整備されました。圏央道が開通し、側道も造られて便利になりました。川越線も昔は1時間に1本あるかないかでしたが、今では本数が増えて便利になりました。

緑に囲まれてのどかで落ち着く地区です。



西端を通る国道407号線杉並木



大野原自治会
かわむらとしお
川村俊夫会長
しもあかさか
 (63歳・下赤坂)

合併当時は農村で、約50世帯くらいでした。現在は、農家と新興住宅が混在している地域で、約130世帯あります。人口は微増といったところですが、世帯数は合併前のおよそ3倍になりました。今では農家以外の世帯が多くなっています。それでも、この地域の農家のほとんどは専業農家です。カブやハウレンソウなどを作って出荷しています。

35年ほど前から会社や工場が増え始め、25年くらい前から住宅が増えてきました。

市の中心部から離れていますが、住んでよかったと思える地域にしていきたいです。



カブの畑が広がります